

県民と自由民主党会派をつなぐ

Linkリンク

2021.8 No.39

ごあいさつ

自由民主党会派 会長 加藤 鉦一

県民のために働く ～コロナに打ち克ち希望ある秋田へ～

日頃より、秋田県議会自民党会派を力強く支えて頂いている、県民の皆様には厚くお礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、我が国でも国難といえる深刻な状況が続く中において、感染拡大防止やワクチン接種のために、ご尽力されております医療従事者をはじめ、全ての関係皆様に深く敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

私たち県議会自民党会派においては、本県沖合で進んでいる洋上風力発電等についても県選出国會議員とともに、若い皆さんが秋田に定住出来るように地域振興や産業活性化に尽力して参ります。

本年の衆議院総選挙は、県民皆様の安心・安全・安定を守るために、わが党の政策や公約を真摯に訴え総力を結集した運動を展開して、勝利を目指して参ります。コロナに打ち克ち誰もが活躍できる秋田づくりに取り組んで参りますので、さらなるご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



秋田市上空より

県議会議員としての今任期の折り返しを迎えました。前半2年は、福祉環境委員会、決算特別委員会、企業の振興と人材の確保に関する調査特別委員会などを務めさせていただきました。後半の2年は、福祉環境委員会の副委員長という重責を任せていただいた他、議会運営委員会も務めさせていただきます。

所管の福祉環境委員会においては、新型コロナウイルス感染症対策について直近の対策と、コロナ後の対応の両面からアプローチを行い、県民の皆様の安全と安心の確保に務めてまいります。感染することは誰にでも起こりうることであり、「正しく怖がる」という視点を持ってもらうことが重要であると考えます。ワクチンの接種も当初の想定よりは比較的スムーズに進んではいるもののまだまだ予断は許されません。憶測に流されることのないよう、そして様々な不安も解消できるよう一議員として尽力してまいります。

新型コロナウイルス感染症以外でも秋田県が抱える課題は多岐にわたっています。今議会では、子ども子育て施策を中心に、今解決しなければいけない課題と、長期的な視点で課題を解決するための道筋をつけるという視点で一般質問に望ませていただきました。

引き続き、秋田のために全力で働いて参りますのでご指導、ご鞭撻のほどを、よろしくお願いいたします。



秋田県議会議員

宇佐見 康人

秋田県議会議員

やすひと

宇佐見 康人

今議会では、①差別のない寛容で優しい秋田づくりについて、②子ども子育て施策と人口減少対策について、③飲食店関連産業の支援について、④新規創業した事業者への特別応援金について、⑤人材確保のための県内企業のウェブの活用支援について、⑥県庁のICT活用の取り組み状況について、⑦スクールソーシャルワーカーの増員について、⑧コロナ禍における重要無形文化財の保護・継承について、質問し答弁をいただきました。詳しくは、県議会のウェブよりご覧ください。



差別のない寛容で優しい秋田づくりについて

問 「多様性に満ちた社会づくり推進事業」の予算が計上されている。あらゆる差別のない多様性に満ちた社会づくりを推進するための基本となる条例の制定に向け、課題の把握や対応策の検討等を行うものだが、LGBTの方、特にトランスジェンダーの方についての議論をする際に、問題提起をするだけでも差別とされてしまう風潮では、冷静な議論ができなくなってしまおうと危惧している。条例の制定に向けて取り組むにあたり、知事は現状でどのような課題を認識しているのかを伺う。

答弁 男女の性差、性的指向、障害者、外国人に関する差別や、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う患者等への誹謗中傷など、様々な差別が存在しており、とりわけ性的指向等は、一人ひとりの個性として当然尊重されるべきものでありますが、当事者のみならず周囲の人々の受け止め方に差異があるなどの課題があり、きめ細かく多様な視点からの考察が求められると考えております。ご指摘の事例などは非常に繊細な問題をはらんでおり、理想論のみでは、否定的な受け止めもあることから、条例の制定に当たっては、県民理解の醸成のみならず物理的配慮等を含め、多角的に問題を捉えるため、専門家や関係団体、当事者の方々との幅広い議論を通じて合意形成を図るとともに、課題に合わせ他県や海外の先行事例の研究も行い、県民誰もがお互いを尊重し、認め合う社会の実現を目指してまいります。

スクールソーシャルワーカーの増員について

問 近年全国的に問題となっている「ヤングケアラー」を何としても助けなければならない。全国的には兄弟間の介助による不登校、親の精神疾患による不登校などが問題となっており、その実態を掴むのはやはり学校との連携を強化していくしかない。多様な社会、取りこぼしのない社会を目指す上では、困難に直面してしまう前の支援が必要不可欠と考える。子どもたち一人ひとりに向き合えるような支援をしていくためにもスクールソーシャルワーカーの増員をするべきと考えるが、教育長の認識を伺う。

答弁 スクールソーシャルワーカーの増員についてであります。現在、5か所の教育機関等に計10名のスクールソーシャルワーカーを配置し、不登校や家庭環境等に関する相談に応じているところであります。相談件数は年々増加傾向にあり、今後はヤングケアラーへの対応を含め、相談内容の多様化が見込まれることから、児童生徒を福祉事務所や児童相談所等の関係機関につなぎ、解決に向けて支援するスクールソーシャルワーカーの役割は、ますます重要になっていくものと考えております。県教育委員会としましては、多岐にわたる複雑な相談に、きめ細かく速やかに対応できる体制を整備するため、スクールソーシャルワーカーの増員を検討するとともに、国に対しても財源措置の拡充を働きかけてまいります。

3月総括審査

- 第三次あきた若者・子どもプラン(案)について
- エシカル消費教育及び環境教育における教育委員会との連携について

6月総括審査

- 新元気あきた創造プランにおける人口減少対策について
- スポーツ大会の応援について

新型コロナウイルスと共存するために

総括審査では、スポーツ大会の応援について感染対策を徹底した上で保護者や生徒の応援を緩和してもいいのではないという提案をしました。7月の高校野球では、昨年度は観客を入れずに行っていた大会も、今大会は、動線の確保や距離の確保などの徹底をした上でプラスバンドによる応援も解禁していただくことができました。結果としては大会でのクラスターの発生には繋がっていません。

今後、様々な面で新型コロナウイルスと共存していく上ではリスクゼロを目指すのではなく、**可能な限り対策を行なった上でリスクを減らしながら日常を取り戻していくという視点が必要**なのではないでしょうか。

正しく怖がりましょう!!

未知のウイルスであると言われている新型コロナウイルスですが、感染者の動向により一喜一憂する必要はないと考えています。行政も感染拡大防止に全力で取り組んでいます。私たちも平時から「リスクをどこまで受け入れるか」という認識を持たなければいけないと考えています。

また、感染された方やご家族、医療機関やその他の関係者に対して、不確かな情報に基づく誹謗・中傷が散見されます。不安を煽るデマや憶測を断定的に語るなどの誤った情報も出ています。正しく怖がるには、正しい情報に基づく冷静な行動と対応が必要です。1日も早い収束に向けご理解、ご協力をお願いします。

自由民主党秋田県秋田市第十三支部

〒011-0942 秋田市土崎港東二丁目3-29

電話 018-846-3737 FAX 018-803-4976

Web <http://yasuhi10.com> Mail info@yasuhi10.com

Link 県民と自由民主党
会派をコネク
リンク

発行/令和3年8月20日
ご質問、ご意見をお聞かせください。

編集/秋田県議会自由民主党会派 政務調査会
〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号【県議会内】
電話 018-860-2040 FAX 860-2102

